

# 神のやま

創刊号



播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会

## 創刊のことば



播磨国総社  
一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会

会長 田中 種男

平成二十五年三月三十一日より一週間に亘り、第二十二回播磨国総社三ツ山大祭が盛大かつ厳粛に斎行されました。

地元をはじめ全国から何十万人がお詣りされ、何千人の人々のご奉仕によって支えられ、麗しく斎了されました事、関係者各位のご支援の賜と有難く厚く御礼申し上げます。

この大祭は全国的にも珍しく、雄大で魅力あふれる「置山」。氏子さんたちの創作とパワーのある手づくり「造り物」、大神輿、永遠に変わらぬ畏敬の神事「五種神事」の芸能など、中世・近世の時代を経て営々と伝承されてきました。

現在、この祭礼は県指定重要無形民俗文化財に指定されており、今回の祭礼では三ヶ年の歳月をかけて学術調査が行われ、三ツ山大祭の調査報告書が刊行されました。

更に、一ツ山・三ツ山両祭礼の伝統を保存継承し、国の重要無形民俗文化財指定を目標として、平成二十七年秋に播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会を設立しました。

この度の会報誌刊行により、当保存会活動をより広く知っていただき、皆様方のお力をお借りして、未来に向かって地道に力強く進めていきたいと思えます。

皆様のご協力を切にお願い申し上げ、創刊のご挨拶と致します。

## 播磨国総社とともに



播磨国総社 射楯兵主神社

宮司 西本 和俊

このたび、播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会の会報誌「神のやま」を創刊されました事は、誠に喜ばしく感謝に堪えません。

播磨国総社に継承される祭礼として、二十年に一度の三ツ山大祭、六十年に一度の一ツ山大祭があります。近世には、三ツ山大祭は臨時祭、臨時大祭と記され、一ツ山大祭は天神地祇祭、一ツ山丁卯大祭と記されています。

平成二十五年春に、第二十二回三ツ山大祭が斎行されました。神様のお導きと、官、民、地域の皆様の知恵と力により、素晴らしい祭りを無事ご奉仕する事が出来ました。

本当に有難うございました。  
今回の三ツ山では、まつりを「次の世代に伝える為に」との思  
いから、高校生や幼児の方々に参加いただきました。

今回の三ツ山の礎として大きな成果でありました。  
平成二十七年に、播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会が発足され、両祭礼の歴史と伝統を伝える顕彰活動が展開されています。誠に素晴らしい事であると思えます。

今般、保存会の会報誌が発刊されるにあたり、心よりお慶び申し上げます。保存会の活動に大きく期待するところです。

# 姫路のアイデンティティ

## ―播磨国総社の一ツ山大祭・三ツ山大祭―

播磨学研究所副所長 小栗栖 健 治

### 一 一ツ山と三ツ山

播磨国総社射楯兵主神社には、六十年に一度催行される一ツ山大祭、二十年に一度催行される三ツ山大祭が受け継がれています。悠久の歴史に培われた伝統、学術的な価値の高さは、この二つの大祭が兵庫県無形民俗文化財に指定されていることから明らかです。

平成二十五年（二〇一三）、二十年ぶりに三ツ山大祭が行われましたが、青空にそびえ立つ壮大華麗な三ツ山は、見るものに驚きを与えていました。

一ツ山大祭は、祭神の兵主神が伊和里の水尾山に欽明天皇二十五年の六月十一日（丁卯の日）に影向したことから、およそ六十年に一度訪れる丁卯の日となる六月十一日に行われてきました。丁卯の年に行われるようになるのは昭和に入ってからのことです。三ツ山大祭は、天慶二年（九三九）に瀬戸内海



平成25年の三ツ山大祭

で起きた藤原純友の乱を平定するため、射楯兵主神社において行われた臨時祭を起源とすると伝えられています。三ツ山大祭は、天神地祇祭（一ツ山大祭）の臨時祭として行われ、天文二年（二五三三）、播磨国守護赤松政村によって二十年に一度と定められたと伝えられています。江戸時代、一ツ山大祭は丁卯大祭礼、三ツ山大祭は臨時大祭礼と呼ばれていました。

天神地祇祭と臨時祭の祭祀が播磨国守護と結びついていたのは、この二つの祭祀が播磨国の国主の主催する大祭であったことを示しています。江戸時代には播磨国の府中を支配する姫路城主が主催し、幕末まで伝統として受け継がれていました。

### 二 三ツ山大祭の現在

平成二十五年の三ツ山大祭は、四月一日から七日にかけて行われました。期間中に行われた三ツ山大祭の伝統的な要素を整理すると、次のとおりです。

- ① 三ツ山 二色山・五色山・小袖山、飾り人形、山上殿
- ② 門上殿
- ③ 特殊神饌 中の日大祭
- ④ 五種神事 中の日大祭 競馬・一ツ物・神子渡・弓鉾指・流鏑馬
- ⑤ 造り物

① 三ツ山は、三ツ山大祭と呼ばれる由来となっているように、この大祭のシンボルです。山の高さは十八メートル、底部の直径は十メートル、山上殿を加えると約二十メートルになります。三ツ山は二色山・五色山・小袖山と呼ばれています。二色山には白と浅黄、五色山には青・黄・赤・白・紫の五

## 姫路の人々の歩みとともに



姫路市長 石見利勝

播磨国総社射楯兵主神社は、奈良時代に播磨国庁の鎮守、平安時代に播磨国総鎮守、鎌倉・室町時代に播磨国府の村々の鎮守、江戸時代には姫路城及び姫路町の鎮守として人々とともに歩んできました。

戦国時代の十六世紀初頭には総社の祭礼に「山」の風流が出現し、全国的にも珍しい巨大な「置き山」の風流は、中世的な五種神事の芸能や田楽、能楽、謡囃子、造り物など様々な風流をも生み出しながら今日に伝えられてきました。

二十年（三ツ山）、六十年（一ツ山）という式年に行われる「置き山」の祭礼風流を未来に伝えていくうえで、播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会の活動は大切な基盤であり、このたび保存会会報誌が発刊の運びに至ったことは、未来への着実な歩みを踏み出されていることと存じ上げ、心からお慶びを申し上げます。

## 創刊によせて



姫路商工会議所  
会頭 齋木俊治郎

平成二十五年桜花爛漫の頃に、播磨を代表する祭として受け継がれてきた第二十二回三ツ山大祭が開催されました。

三宅知行実行委員長、上杉雅彦運営委員長、大崎英雄祭礼委員長をはじめとして、行政、地元企業、地域の皆様が一体となり、姫路全体を盛り上げて頂きましたのも記憶に新しいところです。

これを契機として、祭礼の保存継承を未来永劫に伝えていく為に、播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会が発足され、祭の意義を伝える顕彰活動が広く行われてきました。

このほど、保存会活動の基軸として会報誌が発刊される運びとなりました事、心よりお慶び申し上げます。

今後とも、播磨地域の歴史と伝統を伝える文化遺産の保存継承、地域振興とまちの活性化の為、益々保存会の活動が興隆することを祈り申し上げます、発刊に際してのお祝いの言葉といたします。

色の布をそれぞれに巻き、小袖山には色とりどりの小袖を飾り付けます。

二色山には仁田四郎忠経の猪退治、五色山には源頼光の鬼退治、小袖山には俵藤太の蜈蚣退治の人形が飾り付けられています。この大祭が天下泰平と国家安全を祈念する天神地祇祭に由来することから、世間に災いをもたらすものを退治する物語が好まれたと推測されます。江戸時代、二色山と五色山を飾る布は姫路藩主により奉納され、小袖山の小袖は城下に暮らす人たちのものが飾られました。三ツ山大祭は、官と民が一体となったところに特色があり、小袖を寄進する風習は今も続いています。

②門上殿は、神門の屋根の上に作られます。三月三十一日、射楯神と兵主神が本殿から遷座され、二色山に播磨国の大明神、五色山に九所御霊、小袖山に天神地祇を、それぞれの山上殿に迎えます。

③特殊神饌は、小判餅、箸餅、短冊餅、串餅、ブト餅、角餅、まがり餅の七種類があります。中の日大祭にのみ供えられる播磨国総社に伝えられた伝統的な神饌です。

④五種神事は、御旅所となっている姫路城三の丸広場において行われる流鏝馬・競馬・神子渡・一つ物・弓鉾指の五種の祭礼芸能のことです。

⑤造り物はJR姫路駅から播磨国総社に至る道筋の十か所に「お菊井戸」、「宮本武



特殊神饌

蔵の妖怪退治」など、播磨の故事を題材とした造り物が飾られました。

### 三 山と祭礼芸能

現在行われている三ツ山大祭と一ツ山大祭の構成は、基本的に同じです。江戸時代においても同じであったのかどうか、その点については一ツ山大祭の資料の少なさから、現時点では明らかではありません。

山が登場する一ツ山大祭・三ツ山大祭の祖型は、大永元年（二五二）頃に整えられたと考えられています。『惣社記事略』や『惣社集日記』には、

①大永元年六月、装山の車一基宝前にささ（捧）くり（『惣社記事略』）

②大永二年五月三日大祭祀、装山を改、国府寺村・宿村・福中村三司より広前三ヶ所二作、高サ三間二尺と云、木竹にて造り、色絹にて巻之、御屋形様（赤松政村）御下知也、（『惣社集日記』）

と書かれています。一ツ山大祭・三ツ山大祭に山が作られる、その始まりはこの記録を根拠にしています。

その後、羽柴秀吉による姫路城の築城、関ヶ原の合戦の後に姫路に入封した池田輝政により現在の姫路城が築城されると、播磨国総社は姫路城の鎮守として信仰を集め、城下の町々が氏子となりました。それによって、一ツ山大祭・三ツ山大祭は郷村の祭礼から城下町祭礼・都市祭礼へと新たな展開を見せることとなります。

大永元年六月に登場した山は「装山の車」と書かれていますことから、曳山であったことがわかります。その翌年の五月に行われ

た臨時祭では、赤松政村の命により曳山は改められ置山になりました。車で移動させる曳山に対して、置いて飾っておくだけの山を置山と呼んでいます。(写真3)

本格的な意匠を施し、これほど大規模な置山が造られるのは、播磨国総社の一ツ山大祭・三ツ山大祭だけです。そして、何よりも江戸時代より前の十六世紀代の成立を伝えている山は少なく、京都の祇園祭に次いで古いものです。

中の日大祭には「五種神事」が行われました。五種神事は、承応二年(一六五三)に描かれた「伊和大明神臨時祭之絵図」(姫路市立城郭研究室蔵)に登場します。五種神事の一つである一ツ物は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて都の大神社の祭礼に登場し、人気を博した芸能でした。都の貴族や大きな社寺は地方に



一ツ物(五種神事の内) 平成25年

莊園を所有し、莊園を支配するために自分たちが祀る神を地元に勧請して祀らせ、祭礼様式をも地方にもたらしめました。一ツ物をはじめとする五種神事は地元播磨で成立した祭礼芸能ではなく、莊園支配等とおして都からもたらされたものでした。「五種神事」は、



小袖山と猿楽能の舞台  
(「伊和大明神臨時祭之絵図」姫路市立城郭研究室蔵)

中世の系譜を伝える祭礼芸能の一つとして着目されています。

#### 四 造り物と俄

造り物と俄は、城下町をはじめとする都市祭礼において大きな位置を占めています。総社の祭礼に何時から造り物が登場するのかはつきりしたことは分かっていませんが、寛政五年(一七九三)の三ツ山大祭が最初であったようです。

三ツ山大祭の造り物は、城下の町々が祭礼の賑わいの一つとして町屋の屋根の上や街路に飾られていました。題材は壇の浦や羅生門、安宅の関など芝居や物語の一場面を、人形を用いて人物や背景をジオラマ風に再現したもので、道を挟んだ町の家並みの両側や片側の屋根の上に二十間・三十間に及ぶ大掛かりなものでした。一例として、文政八年(一八二五)の一ツ山大祭の時に作られた造り物を紹介しておきたいと思っています。

この時、福中町は「鯨取」の造り物を製作していました(「幾蔵図冊」姫路市立城内図書館蔵)。町屋の屋根に三十尋(約六十メートル)もある巨大な鯨が作られ、鯨が吹き上げる汐は八間(約一四・四メートル)もありました。鯨をする船は三十艘、一艘の大きさは七間(約十二・六メートル)あり、獵師は七十体が作られていたと。スケールの大きさが実感していただけなのではないかと思えます。いづれにしても、



造り物(絵) (「幾蔵図冊」姫路市立城内図書館蔵)

このような巨大な人形絵巻が姫路の町を飾っていたのでした。忽然と城下の町々に出現した造り物は大祭の呼び物となり、近在・近国から大勢の見物人が押し寄せました。その人気の高さは、造り物を案内する刷り物が作られていることから窺うことができます。

また、大祭の盛り上がりは、城下の人たちが路上などで行う即興の芝居や踊りなどの俄が大きく貢献していました。三味線・鉦・太鼓・鼓などを持ち、大筒を引き回す町、異国人の服装を着て練り歩く町、官女姿で御所車を引く町など様々なものが登場していました。俄は町々の人々が大祭に寄せる気持ちの高まりであり、見物人からすれば盛り上がりを見せる祭りへの期待でした。江戸時代の姫路の町は七十ほどありましたが、文政八年（一八二五）の一つ山大祭には五十五の町が俄をしたと記録されています。

## 五 三ツ山大祭の変容

活況を呈していた一つ山大祭・三ツ山大祭は、明治以降その姿を変えていきます。神仏分離による仏教色の払拭、そして、姫路藩や播磨国という枠組みの解体は、一つ山大祭・三ツ山大祭に直接的に影響を与えるものでした。それぞれの山に属した笠鉦や謡い囃子、曳き物行列などが出ていきましたが、これらが登場しなくなるのも明治のことでした。

一つ山大祭が丁卯の日から丁卯の年へ変更されるのは昭和三年のこと、三ツ山大祭の時期が九月から四月に変更されるのは昭和八年のことでした。戦後復興のもとで昭和二十八年に開催された三ツ山大祭は、二百万の人出で賑わったと当時の新聞には書かれています。この年から山に付属していた舞台は造られず、造り

物も商家の間口に合わせた三間から四間くらいの大きさとなり、その規模は縮小されてきました。昭和二十八年には十九か所に作られた造り物は、昭和四十八年になると二か所となり、造り物は次第に下火になっていきました。こうした背景には昭和四十年代に始まる高度経済成長と都市部のドーナツ化現象があったようです。平成二十五年の三ツ山大祭では地域・高校・大学等に働きかけ、小規模ながらも地域社会との結びつきの中で造り物が復興されたことは、次回への大きな希望となりました。



造り物「お菊井戸」（平成25年）

姫路で誕生した一つ山大祭・三ツ山大祭は、五百年という時を超えて受け継がれてきました。この大祭の歴史を緝く時、祭礼の歴史のみではなく姫路の歴史があぶり出されてきます。それは、私たちの先人の歩みが一つ山大祭・三ツ山大祭に深く刻み込まれていることの証しです。そして、これからも一つ山大祭・三ツ山大祭のあり方に、私たちの歴史が反映されていくことでしょう。

一つ山大祭・三ツ山大祭は、姫路に暮らす人たちの誇りであり、心の拠りどころであるといっても過言ではありません。姫路のアイデンティティが凝縮された一つ山大祭・三ツ山大祭を次の世代へ引き継いでいくこと、これが私たちの大きな使命であると言えるでしょう。

## 保存会活動報告

### 「播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会」発足

(平成二十七年七月十三日)

播磨国総社の一ツ山大祭・三ツ山大祭の伝統を保存継承し、国の重要無形民俗文化財指定を目標として、「播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会」を発足しました。

設立総会には六十名余りの方々に出席いただき、保存会々則を承認、役員選出を行いました。

続いて、平成二十七年事業計画並びに収支予算案について審議され、満場一致にて承認されました。

総会に引き続き第二部では、小栗栖健治先生を講師にお迎えし、「三ツ山大祭」―伝統を受け継ぐ―を演題として、一ツ山大祭・



三ツ山大祭のもつ歴史的・民族的な大きな意義と後世に受け継ぐ必要性についてご講演いただきました。

この度の発足を契機に、現在兵庫県指定重要無形民俗文化財として指定されております両祭礼を、姫路で初の「国の重要無形民俗文化財」となるよう、行政、地元企業、地域の皆様を初め、播磨全地域の皆様と共に、この貴重な文化遺産を保存・継承し、現代の文化と融合した新しい祭礼として発展するよう努めてまいります。

### 「三ツ山大祭」山の飾り人形虫干し

(平成二十七年七月三十一日)

保存会が発足してから初めての事業、「三ツ山大祭」の三基の山に設置される飾り人形の虫干しを、播磨国総社境内にて行いました。

当日は朝から気温が高く、日中は三十三℃の真夏日となりました。

その暑さの中、小栗栖健治先生、姫路市教育委員会文化財課 宇那木隆司氏立会いのもと、当保存会々員の約四十名の方々に奉仕いただきました。

宝物殿から次々と飾り人形を境内に運び出し、パズルのように組み立て、部品を確認し、天日に当てる虫干しを行いました。



# 「播磨国総社三ツ山大祭シンポジウム」

(平成二十七年十一月七日)

当保存会の発足を記念して「播磨国総社三ツ山大祭シンポジウム」を、イーグレひめじあいめっせホールにて開催しました。

第一部は能楽セミナー。

舞台には、能が舞われた往古の姿をイメージした大きな三ツ山を装飾しました。

その三ツ山を背景に、姫路能楽会の皆様が上演する、能「金札」を鑑賞しました。

引き続き謡曲講座では、能楽会会員大西礼久様により、能「金札」を始め、能の演目の謂れなどを分かりやすく解説いただきました。

第二部はシンポジウムー三ツ山大祭と姫路のはじまりー。

コーディネーターに小栗栖健治先生をお迎えし、パネリストに、久下隆史先生、西岡陽子先生、埴岡真弓先生に登壇いただきました。



先の三ツ山大祭にあたり、調査報告書作成に携われた先生方で、この時の調査成果を踏まえ、城下町姫路に展開した三ツ山大祭の歴史を緋ひいていただきました。

このシンポジウムでは、約一五〇名の方々のご参加をいただき、盛会裡に行う事が出来ました。

「姫路に誕生した三ツ山大祭を、よりよい形で次の世代へ引き継ぐこと」この言葉を念頭に、保存会の活動を益々充実させていきたいと存じますので、今後共、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

## 平成二十八年年度播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭 保存会役員会開催

(平成二十八年七月二十二日)

平成二十八年年度播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会役員会が、総社会館にて開催しました。

昨年秋に保存会が発足してより、初めての役員会となり、三十六名の方々の出席、三十名の委任状をいただき、開会しました。

田中会長の挨拶に続き、保存会顧問、姫路商工会議所会頭、姫路信用金庫理事長、三宅知行様よりご挨拶をいただきました。

平成二十七年事業報告に続き、収支決算報告では、記念事業積立金の特別会計を設けて、記念事業の資金として運営していく旨の報告がありました。

平成二十八年事業計画では保存会々報誌発行や、連続講座の実施案等、収支予算では事業に関わる予算等について、説明がなされました。



## 小袖山に飾る小袖の陰干し

(平成二十八年十月十四日)

平成二十七年事業の飾り人形の虫干しに引き続き、平成二十八年度は小袖の陰干しを総社境内にて行いました。

播磨国総社三ツ山大祭の三基の山の内、小袖山を飾る小袖です。

作業は、当保存会々員の方々約四十名の奉仕により、小袖、羽織、襦袢を分別しながら、小袖約五〇〇領の陰干しを行いました。

小袖山には約八五〇領の小袖が必要となります。今後共、皆様からのご寄進をよろしくお願い申し上げます。



### 連続講座 「城下町姫路の祭礼」

(平成二十八年七月より十一月 全十回)

保存会では、平成二十五年の三ツ山大祭の調査研究に携わられた研究者をお招きし、十回にわたり講義及び現地見学会を行いました。

毎回熱心な受講と質疑応答が行われ、三ツ山大祭への関心の高さが伺われました。

受講生五十七名中十四名には全出席の修了証を授与いたしました。



### 平成二十九年度 保存会事業予定

- 一、調査・研究事業  
会報誌発行
- 二、研修会・講演会事業  
造り物製作学習会の実施
- 一ツ山大祭・三ツ山大祭の街並み写真展
- 三、会議  
役員会
- 四、その他関連事業・行事等  
小袖の陰干し

### 「悠久の歴史を伝える 播磨国総社

### 一ツ山大祭・三ツ山大祭」好評頒布中!

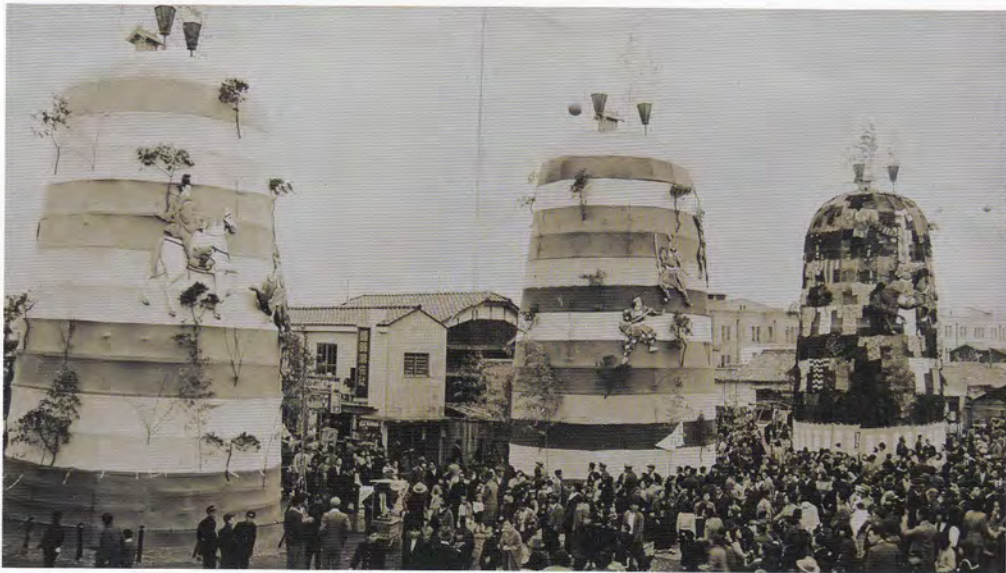
一ツ山大祭・三ツ山大祭の すべてがわかるこの一冊!  
一冊 三〇〇円 播磨国総社社務所にて



悠久の歴史を伝える  
播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭



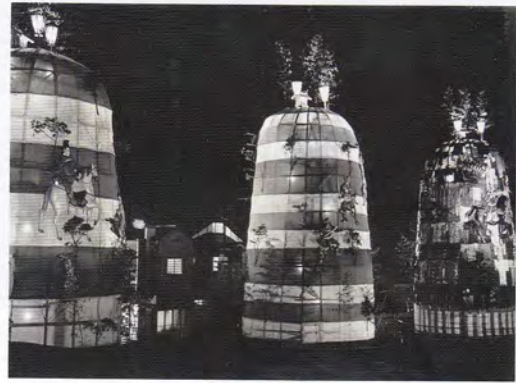
写真で見る  
一ツ山大祭・三ツ山大祭の歴史



神門前に並ぶ三ツ山と、行き交う参詣の人々



三ツ山と門上殿、総社境内を遠望する



闇に浮かぶ三ツ山、内部に照明がともる



神前に詣でる人々、後ろに門上殿が見える



三ツ山祭協賛会によって開設された救護所



山を見上げる老婆、何度目の三ツ山大祭か



五種神事の日における三ツ山前の賑わい



午前2時、総社本殿並びに三ツ山を望む



総社を出立する五種神事の行列と、見送る人々



大群衆が待つ三の丸広場へ、五種神事の行列到着



緊張の面持ちで進む「一つ物」、城と桜が見おろす



三の丸広場での流鏝馬、的は広場の中央に立つ



五種神事の日、小袖山の前を進む神官



古式ゆかしい流鏝馬ならびに競馬奉仕者



出番を待つ流鏝馬奉仕者と見守る神官たち



桜の造花とぼんぼりで飾られた東二階町商店街



弓矢を引き絞る流鏝馬奉仕者の雄姿に昔をしのぶ



三ツ山大祭の宣伝のため、駅前に出現した大鳥居



御幸通りに掛かる五条橋を見上げて通る人々



姫路城前の広場でも開催された、相撲大会



姫路城より三の丸広場の五種神事を遠望する



三ツ山大祭に出現した「エッフェル塔」



海中ならぬ空中を行く浦島太郎（俵町）



賑わう御幸通り、遠くに大鳥居、中ほどに五条橋が見える



「芸」と染め抜かれた揃いの法被、芸子連の手踊り



揃いの浴衣で化粧した大人や子供、  
どこかの町の連か



小溝小路商店街の造り物「羅生門」、  
鬼と武者人形が見どころ



「青柳会」の船形の山車、  
鳴り物の子供が乗っている



大祭中の境内や周辺は、  
さまざまな露店が賑わった



妖術比べ（新地商店街）、  
造り物競技投票の2等



二階町通り入り口の電飾と、  
「娘道成寺」(中二階町)の造り物



大祭中の人出は200万人、  
町には20年に一度の熱気があふれた

## 播磨国総社一ツ山大祭・ 三ツ山大祭保存会 入会のご案内

平成二十七年に播磨国総社  
一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会が  
発足しました。

当保存会は播磨地域の貴重な文  
化遺産であります、一ツ山大祭・  
三ツ山大祭両祭礼の保存・継承を  
主目的とし、歴史と伝統を伝える  
顕彰活動を展開しております。

これらの活動はすべて、会員の  
方々の年会費により支えられてお  
ります。

どうか、本主旨にご賛同いただ  
きご入会いただきますよう、ご案  
内申し上げます。

### 年会費

法人会費(二口) 一〇、〇〇〇円以上  
個人会費(二口) 一、〇〇〇円以上

### 会員数

平成二十七年七月十三日発足当初  
会員数(法人会員含む) 七二名  
平成二十九年三月三十一日現在  
会員数(法人会員含む) 一五四名



発行 平成29年3月31日

発行所 播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会  
姫路市総社本町190播磨国総社射楯兵主神社内

☎ 079-224-1111 fax 079-224-1114

E-mail hozonkai@sohsha.jp HP <http://sohsha.jp>